

校庭の木々の芽もほころびはじめ、たしかな春の息吹を感じる今日の良き日に、島根県立出雲農林高等学校 第72回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことを、この上ない喜びと感じております。

本日ご多用の中、ご臨席を賜りました耕魂会会長 米山広志 様、PTA会長 山田裕之 様をはじめ来賓の皆様方に卒業生の前途を祝福いただきますことを、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。また、保護者の皆様、お子様の栄えある卒業を心よりお喜び申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました、138名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、3年前高い志をもち、夢と希望に胸を膨らませ本校に入学しました。以来3年間、「耕魂・育命」の校訓の下、勉強や部活動、学校行事などに全力で取り組み、日々自らを鍛え、そして成長し、本日晴れて卒業の日を迎えました。これは、もちろん皆さんの努力と研鑽の結果であると思います。しかし同時に温かい愛情を持って励まし支えてこられましたご家族や先生方、先輩・後輩、さらには地域の方々など、多くの人々のお陰であることを決して忘れてはいけません。この人生の節目に当たり、お世話になった方々へ素直に感謝の気持ちを伝えてもらいたいと思います。

さて、私が校長として赴任した2年前、3年の皆さんは2年生になったばかりのとき、赴任のあいさつの中である諺を引用して次のような話をしました。

その諺は、「瑠璃（るり）も玻璃（はり）も照てらせば光る」という諺で、その意味は、『「瑠璃」は青い宝玉、「玻璃」は無色の水晶のことで、いずれも貴重な宝玉で、そのような宝玉は光が当たれば光り輝き目立つように、才能のある者はどこにいても目立つ、あるいは、機会さえ与えれば活躍するということ』です。皆さんの中には、自分には、才能がないから関係ないと思ってしまう人も多いと思いますが、『才能とは情熱を持続させる能力のこと』とアニメ界の巨匠の宮崎駿は言っています。自分の目標であったり、好きなこと、得意なことには情熱を注ぐことができますよね。その情熱を持続させることが才能なんです。その才能を発揮する場面は、一人一人違いますが、ぜひ自分が情熱を注げる場所を見つけて下さい。そして、輝いてほしいと思います。わたしは、皆さん一人一人が輝き、活躍する学校にしていきたいと思っています。と話しました。

そしてまさに皆さん方は、専門教育を通じて、これからの社会を生き抜くための生きる力を身に付けることはもとより、自分の得意とする分野で見事に輝き、中には、全国で、あるいは世界を舞台に活躍してくれました。皆さんの活躍は本当に素晴らしいものでした。

皆さんは本日、めでたく卒業の日を迎え、「高校時代」というステージから次のステージへと歩みを進めていきます。大学や専門学校へ進学し、より専門的な勉強をする人、就職して社会人となり、経済的にも精神的にも自立する人、その道は様々ですが、未知の世界に対する不安と緊張感、そして自分で道を切り開いていくという高揚感とに包まれていることでしょう。皆さんが飛び立とうとしている社会は、AIの急激な進化など技術革新が目覚ましく進展・普及し、超スマート社会と呼ばれる「Society 5.0」が到来します。それに伴い人の働き方や生き方を含めた社会の構造までが激しく加速度的に変化していきます。皆さんにとって、そうした今まで経験したことない状況に置かれたときに、是非実践してほしいことは、「気づき・考え・行動する」ということです。うまく実践できている人の特徴としては、◆ポジティブである、◆失敗を恐れないチャレンジ精神がある、◆広い視野を持っている、◆知的好奇心が旺盛である、◆思考を停止させていないなどが挙げられます。皆さんには、是非とも自分で気づき、考え、行動できる人となって地域社会を支える人材となっていただきたいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、この3年間、本校の教育活動に絶大なるご理解とご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げますとともに、深く敬意を表します。

本日、成長著しいお子様を保護者の皆様と一緒に送り出せますこと、皆様への感謝とともに誇りに思っております。卒業生の皆さん、洋々たる前途を健やかに、そして幸多からんことを心から祈念し、式辞といたします。